

# 小学校第3学年社会科歴史的内容指導についての一提案

—— 児童の歴史意識と地域の歴史的背景に基づいて ——

足利市立御原小学校教諭 刑 部 信 也

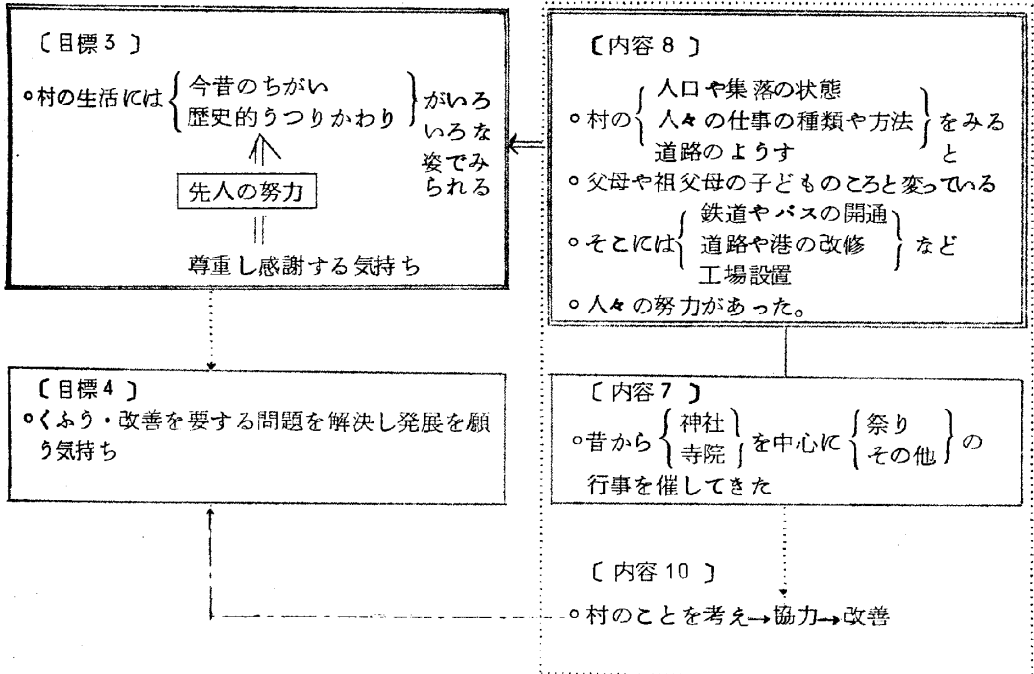
## (1) はじめに（歴史事象の教材化）

社会科における歴史学習の役割りは、「現代社会を成立させた歴史的要因の中に、現代社会を変えていく要因を見い出させることにある。」といわれる。つまり、社会生活を正しく理解するために、現代社会の歴史的背景を探ることであり、その内容には、歴史的知識・理解・法則などがあげられる。この観点から歴史的学习の題材を見ると、そこには歴史的意味を有したもののみが登場してくることになる。

かかる歴史学習指導の観点や扱うべき内容については学習指導要領に示されている。しかし、題材を郷土に求めた場合、郷土という狭い範囲であるがために全国よりもいっそう問題点が残されているのではなからうか。しかるに、最近では「学習の現代化・近代化、教育内容の現代化」などのことばに代表される教育思潮が唱えられている。この間にあって、郷土に関する歴史学習指導の現状は、その流れとの間に大きな隔りを感じさせられないわけにはいかない。

この現状を打破するには、その学習指導において、「その時代の特色を有した典型的な事象をとりあげ、イメージ化させる。」こと、つまり教材化する段階にそのかきかきひそんでいるものとする。

例えば3年生の歴史的学习については、学習指導要領の目標3・内容8・7に示されている。これらの事項を簡単に図式化してみると次のようになる。



これらのことからすると、内容8に示されている「今昔の違いや移り変わり」を見る場合の観点とその契機や、内容7の「昔からの行事」をもとに、目標3に示されている「昔の存在やその歴史の変遷」をとらえさせるわけであるが、そこには常に「先人の努力」を認識させねばならぬことが端的に示されている。

このようにある基準性を持った事項を郷土に結びつけ教材化する場合、単に歴史的学习の役割りを考慮するばかりでなく、児童の歴史意識や知識、郷土の歴史的特殊性をもとにした教材化が必要であると考えるわけである。

## (2) 児童の歴史意識とその知識

前記のごとき学習指導要領により示された指導内容や育成すべき能力にしたがって、次の観点から歴史意識（歴史事象に関しての感じ方・見方・考え方という立場をとっている。）と知識の程度を調査してみた。

### ① 調査の観点

#### A 歴史意識について

観点1. 昔に関する意識（概念・知識・年代など）

観点2. 今昔の相違についての意識（相違のとらえ方・時間的距離感）

観点3. 移り変わりについての意識（身のまわりの事実・事象や市の発展のとらえ方）

#### B 単元の指導内容に関する知識・能力について

観点4. 柳原小学校について

観点5. 市の発展について

観点6. 足利学校・ばん阿寺について

観点7. 地図の比較や資料からの類推

観点8. その他（家庭環境など）

### ② 調査の方法

観点別に1～4問を質問紙法を主体に実施し、その結果につき不明な点、考察不能場合は追加調査や個人面接を実施した。対象はクラス全員（39名）であるが、欠席者が出たため、( )内はその調査人数を記入した。

### ③ 調査問題結果とその考察

#### A 観点1.について（昔に関する意識）

| 観点 | 番号 | 調査問題                                    | 結   | 果  |
|----|----|---|---|--|
| 1. | 1. | 「むかし」とはどういうことですか。あなたの思っていることを書きなさい。（37） | <ul style="list-style-type: none"> <li>・時代おくれ 1・今より前</li> <li>・ふるい時代 1・今よりずっと前</li> <li>・さむらいのところ 4・何百年も前</li> <li>・さむらいや原始人 1・500年前</li> <li>・江戸時代 1・100年前</li> <li>・関東大震災のところ 1・10年前</li> <li>・戦争のあったところ 4・5年前</li> <li>・ 1～100年</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>3・ふべん 1</li> <li>2・ふじゆう 1</li> <li>2・食べ物が 2</li> <li>1 ない</li> <li>1・使いものが 1</li> <li>1 今とちがう 1</li> <li>1・使いものが 1</li> <li>1 おくれている 1</li> </ul> |

- ・電気がない 1
- ・学校・自動車がない 2
- ・機械がない 1
- ・車がない 1

・無答 1

2. 「むかし」とは今から何年前  
ごろだと思いますか(36)  
・( )年前

反応は1~1000年の間に大多数が分布している。これを大別してみると  
1~15 20~50 60~100 120~200 300~800 1000~

なぜそう思いましたか(36)

|            |           |               |            |            |       |
|------------|-----------|---------------|------------|------------|-------|
| 6          | 6         | 14            | 3          | 4          | 3     |
| 自分が生まれたところ | 戦争があったところ | 家の子どもの生まれたところ | 祖父の生まれたところ | 物語に○○年前とある | 武士がいた |

<3.4.5は略す>

※(考察)

「むかし」ということばから受ける児童の反応は、三つのタイプに分けられる。時代的に、年数で、生活用具からの反応である。これらの反応が明治をさかいにして、それ以前は概念的に、それ以後は具体性をもったものとなっている。またつぎの「何百年か」の問いでは、3分の2以上の児童が明治以降を昔とらえている。この二つの反応からみて児童の歴史意識は、明治以降なら、自己の生活に関係ある事実・事象に根拠を求めて、想像の段階ではあるが発達しているとみてよいのではなかろうか。ただこの場合、その時間的意識と時代のイメージは一致していないようである。

また、昔に関する知識では、自己については事故に関するものが多く、自己の成長過程の転機となるような事項についての反応はみられないし、世の中のことについては明治以降の戦争という事象にかたよっている。と同時に、その生活は衣食住ともに原始から現代とその反応は雑多であった。このことから、児童の知識量が少ないことのみでなく、その知識が断片的な点としてのものであること、時間的意識と知識が一致してないこととともに、その意識は明治以前にはさかのぼっていないといえるであろう。

B 観点2について(今昔の相違についての意識)

| 観点番号  | 調査問題   | 結果   |
|-------|--|--|
| 2. 2. | 柳原小のたてもので新しいと思われるもの3つに○をつけなさい。(36)<br>( )東本かん ( )としょかん<br>( )西かん ( )こうどう<br>( )北かん ( )体育小屋 | ・体育小屋 16<br>・図書館 30<br>・東本館 14<br>・西館 8<br>・講堂 31<br>・北館 5 (新築順) |

|           |   |   |
|-----------|---|---|
|           | <p>なぜそう思いましたか</p> <p>※ クラスは西館にある。</p> <p>※ クラスの位置から本館，図書館講堂が見える。</p> <p>※ 本館（玄関）（東昇降口）を修理中</p>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>• 材料が新しい 13</li> <li>• きれい 6</li> <li>• きずが少ない 2</li> <li>• ベンキの色が 5</li> <li>• 板がいい 1</li> <li>• きれい 5</li> <li>• みんなで使う 1</li> <li>• 木の色がきれい 1</li> <li>• ものは新しい 1</li> <li>• よくみられる 1</li> <li>• 昔は大きなもの 1</li> <li>• 無答 9</li> <li>• はできなかった 1</li> </ul>  |
| <p>3.</p> | <p>あなたのおとうさんやおかあさんが生まれた時とおじいさん，おばあさんが生まれた時をくらべると，どちらが先でしょう。（36）</p> <p>( ) 同じ</p> <p>( ) おとうさん，おかあさん</p> <p>( ) おじいさん，おばあさん</p> <p>なぜそう考えましたか</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>• おじいさん，おばあさん 36</li> <li>• 年をとっている 26</li> <li>• しろが，しわが多い 4</li> <li>• 父母を生んだ 6</li> <li>• 祖父母は父より戦争に多く行った 1</li> <li>• せがちがう 1</li> <li>• 無答 1</li> </ul>   |
| <p>4.</p> | <p>あなたのおとうさんが生まれる前の年数と生まれてからの年数とではどちらが長いと思いますか。（36）</p> <p>( ) 同じ</p> <p>( ) 生まれる前</p> <p>( ) 生まれた後</p>   | <p>4, 5をまとめてみる（同一人物について）</p> <p>（生前が長い）                      （生後が長い）</p> <p>⑩ { <math>\begin{array}{c} 13 \leftarrow \text{(父)} \rightarrow 3 \\ \parallel \\ 13 \leftarrow \text{(父)} \rightarrow 3 \\ \parallel \\ 13 \leftarrow \text{(父)} \rightarrow 3 \end{array} \right\}</math> ⑩</p>   |
| <p>5.</p> | <p>あなたのおじいさんやおばあさんが生まれる前の年数と生まれてからの年数とではどちらが長いと思いますか。</p> <p>( ) 同じ</p> <p>( ) 生まれる前</p> <p>( ) 生まれた後</p>   | <p>⑪ { <math>\begin{array}{c} 1 \leftarrow \text{(父)} \\ 1 \leftarrow \text{(父)} \\ \text{(父)} \rightarrow 3 \\ \text{(父)} \rightarrow 3 \\ 2 \leftarrow \text{(父)} \\ \text{(1)} \leftarrow \text{(同じ)} \rightarrow \text{(1)} \\ 6 \leftarrow \text{(父)} \end{array} \right\}</math> ※ (○) …… 正答<br/>(□) …… 誤答</p> <p>⑫ { <math>\begin{array}{c} \text{(父)} \rightarrow 3 \\ \text{(父)} \rightarrow 3 \\ \text{(父)} \rightarrow 3 \\ \text{(父)} \rightarrow 3 \\ \text{(父)} \rightarrow 3 \\ \text{(父)} \rightarrow 3 \\ \text{(父)} \rightarrow 6 \end{array} \right\}</math> ⑫</p> |

※ 新旧の判別（今昔の相違）

講堂，図書館，体育小屋に多く反応しているが，問題となるのは講堂に多く反応していることである。これは児童の反応の根拠が材料のつや，色，見た感じ，つまり感覚的なものであり，判別の基準が明白でないことを示している。つまり建物を人間不在の一つの事物として眺めているのである。この点新旧の判別に際しては，生活と事物の関係や建物の構造などの関係から学習を進めていくことが必要と考えられる。この場合，わずか1名の反応であるが，「みんなで…」という根拠を大いに活用してみたい。

※ 時間的距離感について（今昔の相違）

正しく認識しているのは14名のみである。他は，

- 父母，祖父母ともに生後が長い。（13名）
- 祖父母の生前は長い，父母は生後が長い。（3）

・ 祖父母は生後が長く、父母は生前が長い。(6)

と反応している。

この結果は、祖父母は父母よりも先に生まれているという事象や、観点1(4)において、祖父母が生まれたのは100年前以後であるとの反応からすると、祖父母、父母の誕生を時間の流れの中に位置づけることの困難さ物語っていると同時に、祖父母以前の時間的意識はきわめてうすいことを示している。この傾向は観点1と同結果であることからして、個々の断片的知識を組織づけるため、事実の前後関係・時間的経過・イメージと時間(時代)を一致させるため年表指導を考慮する必要がある。

C 観点について(移り変わりについての意識問題と結果は省略)

※ 身のまわり、市の発展とともに、大多数の児童が一連の移り変わりをとらえている。この場合もその根拠が、時間の流れとの関連からではなく、点として存在している感覚的反応であるかもしれない点こころしておく必要がある。つまり「移り変わりの意識」は今昔の相違や、事実・事象の時間的距離とイメージの一致があって初めて成り立つものであり、それらいくつかの事実・事象のかかりあいの上になって形成されていくものであることを念頭において指導する必要がある。

<観点4については略す>

D 観点5について(市の発展について)

| 観点番号  | 調査問題   | 結果  |
|-------|--|---|
| 5. 1. | 足利についての昔のできごとについて知っていますか (36)<br>・ ( ) 知っている<br>・ ( ) 知りません  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 知っている 18</li> <li>・ 知らない 17</li> <li>・ 無答 1</li> </ul>   |
|       | それはどんなことですか  | 大要は<br>・ 大水 ・ 城があった<br>・ 柳原はもとは野原だった  |
| 2.    | つぎのことがらのうち足利市の発てんに役だったと思われるのはどれでしょう。(36)<br>( ) 市になった ( ) 火災ほう知機ができた<br>( ) 農家がふえた ( ) 自動車がふえた<br>( ) 工場がふえた ( ) 国道ができた<br>( ) 鉄道がしかれた ( ) 昔の人が努力した<br>( ) 用水ができた ( ) グランドができた | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市になった 18</li> <li>・ 農家がふえた 8</li> <li>・ 工場がふえた 28</li> <li>・ 火災報知機 18</li> <li>・ 自動車がふえた 20</li> <li>・ 用水ができた 7</li> <li>・ グランドができた 11</li> <li>・ 国道ができた 30</li> <li>・ 昔の人々が努力した 18</li> <li>・ 鉄道がしかれた 27</li> </ul> |

(以下の問題は略)

※ 足利についての知識

知識量の少ないことは観点1と同様であるが、その内容がほとんど児童の時間的意識外のもので、しかもトピック的な事項にかたよっている。しかしこの原因は、話として聞く性質上下記のような

事情によるのではなからうか。

○家族構成

|          |    |
|----------|----|
| 祖父母のいる家庭 | 6  |
| 祖父のみいる家庭 | 3  |
| 祖母のみいる家庭 | 8  |
| 核家庭      | 22 |

○現在地居住の時期

|         |    |
|---------|----|
| 明治      | 1  |
| 大正      | 4  |
| 昭和 1~10 | 2  |
| " 11~20 | 2  |
| " 21~30 | 14 |
| " 31~40 | 10 |
| " 41~   | 5  |

(※観点8も参照)


この二つの事項のみに原因を限定することには危険性があるが、核家庭の増加・現在地への転居が戦後ということ(市内における転居の場合は少なく、しかも祖父母のいない場合が多い。)を考えると、児童の知識量の不足や傾向のかたよりにしかたがないのではあるまいか。したがって、本単元の指導にあたっては、昔の事実、事象を十分にとらえられるよう、歴史地図や年表など視覚に訴えるものや、調査学習的なものを取り入れながら学習を進めさせる必要が感じられる。

※ 市の発展の契機について

第1に、交通や産業の面からとらえていることが明白である。その反面、市制の施行・火災報知機の設置などへの反応も多数みられる。これは過去の事実・事象を、現在という時点にすりかえてしまい現在の尺度でもって過去を判断している傾向があることや発展の契機とその結果を混同していること、つまり因果関係をさぐることの困難さが示されているものと考えられる。したがって、指導に際しては、交通・産業(特に工業)を二つの柱として社会の発展をとらえさせ、それを時間の流れの中における人間の努力と契機・結果のかねあいのもとにとらえさせていくと同時に、過去の時点に立って思考する場の設定のため、実物やスライドなどにより少しでも過去の世界にひたらせるための努力が必要である。

E観点6について(足利学校・ばん阿寺について)

| 観点 | 番号 | 調 査 問 題   | 結 果   |
|----|----|---|---|
| 6. | 1. | 足利学校について知っていることを書いて下さい。(36)<br>○足利学校を知っていますか。<br>○足利学校に行ったことがありますか。<br>○足利学校はどこにありますか。白地図に <del>を</del> つけなさい。<br>○足利学校はいつごろたてられたものでしょうか。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・知っている 23</li> <li>・ある 15</li> <li>・無答 1</li> <li>・正答 2</li> <li>・無答 19</li> </ul> ・知らない 13<br>・ない 20<br>・誤答 15<br><概略> 65~5000年(見当もつかず) |
|    | 2. | 大日様について知っていることを書いてください。(36)<br>○大日様を知っていますか。<br>○大日様に行ったことがありますか。   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・知っている 36</li> <li>・ある 36</li> </ul> ・知らない 0<br>・ない 0  |

|  |  |
|--|--|
| <p>○大日様はどこにありますか。白地図に  をつけなさい。</p> <p>○大日様にかんけいある行事を書きなさい。</p> <p>○大日様はいつたてられましたか。</p> <p>○大日様は何のためにたてられたのでしょうか。</p> <p>○なぜ前の二つのことを知っているのですか。</p> | <p>・正答 34</p> <p>・誤答 2</p>   |
|  | <p>・7・5・3 19</p> <p>・運動会 1</p> <p>・よろい行列 2</p> <p>・菊の展示会 1</p> <p>・春秋の祭り 10</p> <p>・えびす様 1</p> <p>・無答 10</p>   |
|  | <p>・90～1500年前</p> <p>・大日をまつる 1</p> <p>・寺 1</p> <p>・昔のものを残す 1</p> <p>・足利の宝 1</p> <p>・国宝 2</p> <p>・お祭り 4</p> <p>・おまつり 3</p> <p>・行者をまつる 1</p> <p>・無答 22</p> |
|  | <p>・話 8</p> <p>・本 3</p> <p>・想像 3</p> <p>・無答 22</p>   |
| <p>○「ばんな寺」というお寺はどこにありますか。白地図に赤でXをかきなさい。</p>  | <p>・正答 14</p> <p>・誤答 12</p> <p>・無答 10</p>  |

※創立者やその歴史的役割り（歴史的意味）についても問うてみたが反応がなく省略した。

本単元の指導にあたって学習指導要領の目標・内容や児童の実態からして最も問題となるのはこの足利学校とばん阿寺の扱いである。しかも、この両者を扱うか否か各人により意見が異なり、さらにその扱いにも各種の方法が考えられる。この調査の結果からすると、

※ 足利学校については、児童は名称のみで実感として受けとめていないといつてよい。（名を知り位置を知り・行ったことのある児童のみ）また、その創立年代や歴史的意味（質面紙法実施後面接も実施）にいたっては、全く知識として成りたっていない。これはあまりにも児童の時間的意識からかけ離れていると同時に、生活との結びつきも薄いためやむをえないことである。

※ ばん阿寺については、児童とのつながりが深いためか、大日様として、遊び場として意識されていることは明白である。しかし、寺として・足利氏邸宅としての意味ではとらえられていない。ただ、ばん阿寺の関係行事として、祭りをはじめいくつかの事実をとらえているところに足利学校と異なって指導の手がかりが求められよう。

以上のことからすると、足利学校やばん阿寺を本来の姿、歴史的遺産として、編年的に単元の最初から扱うことは不可能である。しかし足利に住む人間として、この両者にふれず不明のままにしておくことは忍びがたいことである。以後6年の歴史的学習・中1の郷土学習・中2の歴史的分野と触れる機会はあるが、3年生としても、両者の存在した事実のみは知らせておく必要があると考える。この場合の扱いは、前記のごとく学校として、寺としてではなく、児童の目にふれている行事と市民生活との関係や建物の存在という面から眺めさせ、これらの存在に気づかせることや、明治以前の時間的意識・距離感の育成に役だてる程度に扱うことが妥当なのではないかと考えられる。したがって内容7により小単元として独立した扱いをするよりも、内容8の中で7を含めた扱いとならざるをえないのではなからうか。

F 観点 7. 8. について (地図の比較や資料からの類推・家庭環境)

| 観点 | 番号 | 調 査 問 題   | 結 果   |
|----|----|---|---|
| 7. | 1. | 2つの地図(のびゆく足利・昔と今の地図)を比べて大きくかわっているところをみつつけなさい。(36) | <ul style="list-style-type: none"> <li>・はし 1 1</li> <li>・ 鉄道 9</li> <li>・ ( 駅 3</li> <li>・学校数 6</li> <li>・工場数 1</li> <li>・田畑の分布 1</li> <li>・町名 1</li> <li>・道路名 1</li> <li>・道路数 4</li> <li>・家の分布 5</li> <li>・縮尺 1</li> <li>・方位 1</li> <li>・くわしさ 1</li> <li>・山 3</li> </ul> |
|    | 2. | 略   |   |
| 8. | 1. | 略   | 観点 5 の結果の考察参加   |
|    | 2. | 父母の年令   | ~ 30 31 ~ 35 36 ~ 40 41 ~ 45 46 ~ 50 51 ~ 55<br><br>1        22        35        11        3        2<br>60 ~ 65<br><br>1   |
|    |    | 祖父母の年令  | 60 ~ 85<br>※家庭調査(42・4実施)より  |

※ 観点 7 (二つの地図の比較とグラフの読みとり)

地図の比較において、内容上の比較、表記上の比較、現在を基準とし想像上での比較、現在を基準とし想像上での比較と反応は多様であるが、この比較の中心となる市街地の変化に関する反応が大半を占めるとともに、全員が何らかの形で応答していることは、一応表面的、初歩的な比較をする能力を持っていると考えられる。また、ここには調査問題として掲げてないが、繁華街の位置の変化を鉄道の敷設・鉄橋の架設に求めている児童がいることからしても、他の事象と関連づけながらの比較も一部の児童には可能のようである。ただここでは示した地図に比較するものとしての妥当性を欠いていたのではないかという反省はしなければならない。このようなことは、町村合併と人口の増加とを関連づけて読みとる問題においても、同様な傾向が表われている。つまり、人口グラフの読みとりに影響を受けていることである。グラフの読み方の指導の必要性を感じるとともに、資料の与え方に対する警告とも受けとめたい。

※ 観点 8. (観点 1 と関連して)

観点 8.のごとく、父母の年令・祖父母の年令には大きな隔りがある。この場合、一応父母の子どものころは 20~35 年前、祖父母の子どもの頃は 50~75 年前という基準性は設定できるが、「おじいさんの子どものころ・おとうさんの子どものころ」といった表現による時代区分では、個人個人の親の年令が異なっている以上個人の学習の成立が困難になるおそれがあるのではなからうか。また、観点 1.の年号についての調査では、明治以降については大多数が知っており、同一年号内ならば逆算した年数も誤りが少ない。さらに、地域により、その地域の発展の契機が存在するはずで



ある。この場合契機となった事実、事象そのものを使用するか、その事実、事象の年号をおさえて学習させることの方が効果的であり、一斉学習の成立という点からしてもよいのではないかと考えている。

この場合問題となるのが、郷土足利の発展の歴史、その契機・特色を如実に現わしている事象の選択である。

### (3) 本地域でとりあげられる歴史的事象

この地域の実態についての研究が不足しているが、本単元で主としてとりあげる歴史的事実、事象について記してみる。まず取り扱う事実、事象を選択する観点としてつぎの4つをあげてみた。

1. 市街地の拡大
2. 人口の増加
3. 産業の発達（織物の生産と織機台数など）
4. 交通の発達

この4つの観点にてらし合わせて、常に産業と交通という二本の柱を基礎にしながらつぎの5つの歴史的事実、事象にしぼってみた。

1. 両毛線の開通…………… 明治初期～中期
2. 点灯…………… 明治末期～大正
3. 市制の施行…………… 大正中期
4. 鉄橋の架設（公共施設の整備）…………… 昭和初期～20年
5. 町村合併…………… 昭和21年～現在

この事項については先述のごとく研究不足のため、偏見に陥いることを最も危くしている次第である。

### (4) 単元指導の立場（方針）

#### ① 歴史的見方、考え方を育てるために

本単元のねらいは学習指導要領の目標、内容に示されているごとく、歴史そのものではなく、共同体としての市の発展の背景を探り、その影には人々の努力があったという歴史的感覚、考え方を育てることに力点があると考え。そこでその能力育成の基本的観点として

- ・いつ……………年表の利用
- ・どこで……………歴史地図の利用
- ・だれが……………具体的人物で
- ・何を……………何のために
- ・どうした（どうなった）……………結果を重んじるが早急な結論はさける。

の5つをあげた。

#### ② 小単元の構成とその指導

##### A 小単元の構成

児童の歴史意識の調査結果からみると、初めから「足利の移り変わり」を対象として扱うことは困難である。児童の意識は明治以降であり、知識は身近かなものほど具体性を有しているからである。そこで、最も身近かな「学校の沿革」（導入として個人の生育歴、家庭の変化を扱う。）を、つぎに旧足利市において集落、田畑の分布など変化が激しくそのようすの比較がしやすい「校区の変化」を扱い、その変化の追求は足利市全体から考える必要があるとの意識を高めながら「足利市の移り変わり」へと範囲を広げていくように構成した。

#### B 小単元のねらいと指導内容の概要

第1・2小単元では、「昔の存在・今昔の相違（比較）」を中核としながら、その間にあって、学校や地区における風俗・習慣にふれさせ、それぞれ変化していることに気づかせることを主張とする。第3小単元では、先にも記した5つの事象を中心とし、しかも実態・過去の学習経験を生かす意味からして、交通と産業との関連（初歩的因果関係）や「先人の努力」に意を注ぎながら学習を進めさせ、最後の「これからの足利」で、これまでの発展のようす（変遷から歴史的感覚の育成に努めたい。しかし、単元全体としては変遷というより、比較に重点を置き、その変化のようすや原因を探る程度にとどめ、変遷についてはその意識の芽生えが生じればよいというくらいにとどめておきたい。

#### C 指導法

本単元で育成すべき能力をふまえ、市の発展は先人の努力に帰することを理解させるには、まず昔のようすを実感に近い形でとらえさせること、当時の時代感覚にひたらせることが必要である。そのためには、少しでも当時のようすを再現さすべく、古地図をはじめ写真・説話・実物と多くの視覚教材を用いて、その観察を客観的に事実の追求に徹するよう指導する必要がある。また指導内容についての資料が児童たちの生活や学習経験内においては不足しがちである。この状態で学習を進めると、当然自主的・主体的学習を進めることにかかなりの抵抗が予想される。従って、事前に十分とはいかないまでも資料集めをさせる意味から、次時の課題の設定をさせるばかりでなく、各個人の能力の範囲内で解決できる程度の学習課題の設定をさせ、意識を高めながら学習を進めて行きたい。

つぎに、児童の断片的な知識・時間と事象の不一致という実状を一つのイメージとして組織づけ、今昔の変化とその契機を追求させるには、年表の利用が重要である。この場合の白年表は単なる文字の記入のみにたよらず、絵図の記入、グラフとの照合などができるようなものを用意し、歴史事象の契機の発見や移り変わりのようすをとらえられやすくなるよう配慮した。さらにイメージを明確にするには、第3小単元において、集落・文通・仕事などを別個に扱いよりは、児童の知識と時間の結びつきの薄いことを考慮すると、これら全体を含めながら、時によりそのポイントを移すという扱いが適当ではないかと考える。つまり一つの事象についての問題史的扱いをさけ、その時代を総合的に扱いイメージ化を図ろうとしたわけである。

#### D 足利学校とばん阿寺の扱いについて

先の実態調査の項でも記したように、これらの本来の歴史的姿を学習の対象とすることは時間的意識からみてとても無理である。従って歴史的意味としての扱いは避け、明治以前の昔の

存在，明治以前の時間的意識を明らかにしていく一つの手がかりとして扱うよう構成した。この場合そのよりどころは内容8ではなく，内容7となるであろう。しかし，この内容7にそのよりどころを求めたとしてもやはり一つの大きな問題が存在するのではなからうか。つまり足利学校の釈奠（祭）・ばん阿寺の例祭ばかりでなく，その他一般の祭りに大きな変質が起っていることである。「昔から…楽しみをともにしてきた。」という内容であっても，実態調査（観点5・8）のごとく，昔の祭りのようすを聞かせる知識を持った老人の少ないこと，昔から現在地居住者の少ないこと（聞きとり調査のむずかしさ），しかも現在の祭りは楽しみをともにするという意識はほとんどみられず，伝統的な意味を失い，形式的な楽しみのみが存在しているにすぎない。これではかつての祭りの姿をイメージ化し，現在との比較することがすこぶる困難にならざるをえないことになる。従って，小単元を構成することは困難であるし，祭りとして一括した扱いも無理であろうとの判断のもとに，各小単元の中（特に第3小単元）で現在との比較・移り変わりの学習にからませて，その不変的存在であることを意識づけしたり，内容7の趣旨に少しでも近づけるうと当時の生活様式や習慣と結びつけながらその存在を意識させるようにし，最後に不変的に存在しているものとしてまとめるよう試みたわけである。しかしその成立年代については意識外であるが，時間的意識の成長という意味から，年表の長さという点でおさえておきたい。

## (5) 単元の目標とその構成

### ① 目標

- わたしたちの学校のようにや柳原地区・足利市の人口や集落の状態・人々の仕事の種類や方法・道路などのようすをみると，昔の今では変っている点があることを理解させる。
- 今昔の相違の契機には，交通の発達や工場の設置などによること，そのために多くの人々の努力があったことに気づかせる。
- 足利学校やばん阿寺は，とおい昔からあり，人々はこれらのお祭りやその他の行事を催し，楽しみをともにしてきたことがあったことに気づかせる。
- 足利市の人々の生活や仕事をさらに向上させるために，足利市が努力していることを知らせ，市の発展のためには市民の協力が必要であることに気づかせる。
- 年表やグラフなどの資料の活用により，事実・事象との比較・関連などから，初歩的な歴史的思考力を育てる。

### ② 指導計画

|              |            |
|--------------|------------|
| 足利市の昔と今      | 18時扱い      |
| 1. 学校の昔と今    | 3時（導入を含む）  |
| 2. 柳原地区の昔と今  | 2時         |
| 3. 足利市の移り変わり | 11時        |
| 4. これからの足利   | 2時（まとめを含む） |

③ 指導内容の配列

| 単元 | 時 | ね ら い  | 内 容   | 資 料  |
|----|---|--|---|--|
| 1  | 1 | <p>〔わたしたちの生まれたところと今〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分たちの生まれたところと今とは、生活のようすに大きなちがいがあることを理解させ他の事物事象にも変化のあることに気づかせる。</li> </ul>                | <ul style="list-style-type: none"> <li>自分の成長過程と家族の変化</li> <li>自分たちが生まれたところのようす</li> <li>現在とのちがい(比較)</li> <li>年表の作成と利用</li> <li>本単元の学習課題をきめる</li> </ul>        | <ul style="list-style-type: none"> <li>写真(家族・家の周囲など)</li> <li>説話(親・教師)</li> <li>白年表</li> <li>※比較の観点<br/>(かわったもの<br/>かわらないもの)</li> </ul>  |
|    | 2 | <p>〔柳原校ができたころ〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>柳原校の創立されたころの学校やくらしのようすは現在と比較して大きなちがいのあることを理解させる。</li> </ul>                                    | <ul style="list-style-type: none"> <li>昔の学校とその付近や学校生活のようす</li> <li>現在の学校とその付近の学校生活のようす</li> <li>昔と今の学校の比較</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>見取図(学校)</li> <li>絵地図(学校付近)</li> <li>白年表</li> <li>写真(卒業記念、運動会)</li> <li>グラフ(卒業生)</li> <li>説話(第2回卒業生)</li> <li>図鑑</li> </ul>                                |
|    | 3 | <p>〔学校のうつりかわり〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校はいろいろな変化を経て現在にいたっていることを理解させ、そのうつりかわりに気づかせる。</li> </ul>                                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>校名と校舎の変化と当時の学校生活</li> <li>入学後の変化</li> <li>学校のうつりかわりをまとめる。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>見取図(校舎図)</li> <li>写真(卒業記念)</li> <li>説話(父母・教師)</li> <li>年表</li> <li>白年表</li> </ul>   |
| 2  | 1 | <p>〔むかしの柳原地区〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>集落のようすは昔と今ではどのように変わっているか調べその違いに気づかせる。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>昔の柳原地区のようす(学校ができたころ)</li> <li>(田畑の分布、集落の分布、道路の分布、公共施設の分布、町名など)</li> <li>今の柳原地区との比較</li> <li>昔の生活のようす(服装・仕事)</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>地図(明治44年<br/>白地図帳P1)</li> <li>白年表</li> <li>写真</li> <li>説話</li> </ul>  |
|    | 2 | <p>〔柳原地区のうつりかわり〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>柳原地区のうつりかわりを理解させる。</li> <li>集落の発達著しい本城2丁目、有楽町を例にとりいつごろ変化したか調べ、その原因を考えようとする意識を育てる。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>昔の地図(明44と明5)を比較する。</li> <li>昔の地図と今の地図を比較し、そのちがいを調べる。<br/>(かわらないもの)<br/>大きく変化したもの)</li> <li>当時の生活のようす</li> </ul>        | <ul style="list-style-type: none"> <li>地図 { 明治44<br/>昭和5<br/>昭和42 }</li> <li>分布図</li> <li>(本2, 有楽町の家屋)</li> <li>(足利市住宅詳細図)</li> <li>航空写真(36, 41)</li> <li>説話(父母)</li> <li>(※参考…寛文年間図)</li> </ul> |
| 3  | 1 | <p>〔足利市のうつりかわり〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>足利市が昔から今までに人口、交通、産業、広がりなどいろいろな変化があったことを現在の市との比較の上で理解させ、その契機に関心をもたせる。</li> </ul>               | <ul style="list-style-type: none"> <li>地図の比較(主として広がり)</li> <li>人口・産業(織物生産額の変化)のようすと大きな変化</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>地図(人口・生産)</li> <li>グラフ(顔)</li> <li>白年表 ←<br/>はりつける</li> </ul>   |
|    | 2 | <p>〔足利のようすが変わったもの〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>足利市のようすが大きく変わってきた原因には、大通り、鉄道の開通、点灯、鉄橋の架設、工場の設置、町村合併などがあることに気づかせる。</li> </ul>               | <ul style="list-style-type: none"> <li>人口の増加とその原因</li> <li>集落の分布とその原因</li> <li>市街地の発達とその原因</li> <li>産業の発達とその原因など</li> </ul>                                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>白年表</li> <li>年表</li> <li>地図・白地図</li> <li>グラフ(人口・生産額)</li> <li>(足利駅沿革史)</li> </ul>   |

|   |    |                      |        |  |
|---|----|----------------------|--------|--|
|   | 3  | 【大通りや鉄道ができたところ】      | 【以下省略】 |  |
|   | 4  | 【大通りや鉄道がしかれて】        |        |  |
|   | 5  | 【電灯のついたところの足利】       |        |  |
|   | 6  | 【市になった足利】            |        |  |
|   | 7  | 【工場の増加する足利】          |        |  |
|   | 8  | 【大きくなった足利市】          |        |  |
|   | 9  | 【工場をまねく足利市】          |        |  |
|   | 10 | 【周辺地区の移り変わりと昔からあるもの】 |        |  |
|   | 11 | 【足利市の移りわりとそのようす】     |        |  |
| 4 | 1  | 【新しい都市づくりには元足利市】     |        |  |
|   | 2  | 【これからの足利とわたしたち】      |        |  |

## (6) 指導事例

### ① 指導案

◦題 材 柳原地区のむかしと今

◦ねらい 昔の柳原地区は、今とくらべて、一集落・道路・田畑の分布などの景観の上や、生産活動・生活用式についても変わったところがあることを、地図や古老の話、児童の調査学習を通して理解させる。

◦展 開

| 学 習 活 動  | 資 料             | 指 導 上 の 留 意 点   | 評 価   |
|--|-----------------|---|---|
| 1.昔の柳原地区のようす(柳原校が創立されたところ)について聞きとり調査してきたことを話し合い、予想してみる。<br>・景 観<br>・生活様式         |                 | ・観点をしぼらずに、自由に発表させ話し合わせる。(年代的にもわけない。)<br>・児童の家庭環境からして十分な調査は期待できない。未調査の児童には特によく聞くよう注意を促し、話し合い後、全員に想像図を書かせる。   | ・主体的に、聞きとり調査や、資料収集をしてきているか、発言内容から観察する。(課題を明確にとらえているか。)  |
| 2.昔の柳原地区の地図を着色し観察し発表する。〈個人〉<br>・集落の分布<br>・主要公共施設の分布<br>・田畑の分布<br>・道路の分布<br>・町名など | ・地図(明治44年)      | ・地図や年代の位置を年表に示し、現在との隔たりに気づかせる。<br>・着色は輪郭にとどめる。<br>・地図記号(現在とのちがい)や地名については補説する。<br>・柳原地区についての確認はするが、あまりこれにはこうでない。<br>・観点については、児童の驚き、自主的観察が終了するところまでとめるために補足的に示してやる。 | ・地図作成年代が何年前であるかわかり、その時間的隔たりについて意識したか表情やつぶやきなど教室内のふん囲気で評価する。<br>・明治44年ころの足利の景観についてその特徴をとらえられたか、ノートや発表内容により行なり。 |
| 3.昔と今の地図を比較し、その相違点について話し合う。  | ・白地図帳(P1…昭和42年) | ・観察の観点は今昔の地図で<br>{同じようなところ(不変的なもの)<br>{違ってるところ  |   |

|  |   |  |  |
|--|---|--|--|
| <p>＜個人グループ学級＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・類似点</li> <li>・相違点</li> </ul> <p>4.地形の変化と同様に生活のようすの変化について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・仕事のようす</li> <li>・食事、服装のようす</li> <li>・用水のようす</li> <li>・家屋構造など</li> <li>・おまつり</li> </ul> <p>5.いづれからこのようすがいがあるのか考えてみる。</p> <p>6.本時の学習事項を確認し、次時の課題を設定するとともにその解決のための方法資料について話し合う。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・写真（働く人、服装）</li> <li>・絵</li> <li>・ランプ</li> </ul> <p>・白年表（自分・家庭の項）</p> <p>明治44年以前や明治44年と現在の間の地図があればそれに値する地図をわたしておく。</p> | <p>というくらいを与え、個人学習をさせ机間巡視により、前項における観点との関係を指摘する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・観察は昔の地図を主体として現在の地図はその変化した姿という意味でとりあげる。</li> <li>・個人学習の後グループ学習にうつり、グループとしての意見をまとめさせておく。</li> <li>・グループ間の意見交換に際しては「昔は〇〇だったのが今は〇〇と変わっている。」というように表現をさせ、グループ間の討議にまで高めていきたい。</li> <li>・大日・足利学校には気づかせておく。</li> <li>・学習活動1で発表されたものを主としてとりあげるが、発表は断片的のためよりが予想されるので生活全般的なものについての説話を用意しておく。</li> <li>・この学習は、第3単元で主として扱う内容であるためあまり深りをしないが人々の生活上の苦心にはふれさせておく。</li> <li>・自分の生育歴との関係で時間的意識をもってその違いの時期をとらえさせるようにするが、ここで解決するのではなく次期の課題設定へとつなげたい。</li> <li>・課題設定は児童の発言をとり入れながら「どのようにならなかってきたか」という移り変わりに導く。</li> <li>・資料については、聞きとり調査に必要な事項くらいにとどめておく。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・比較する観点を定めて観察を進めているか、作業の進め方により判断する。</li> <li>・学校以北の景観の相違、学校以南の公共施設の分布の相違や学校以南の集落のようすの変わっていないことなどに気づいたか話し合いのやりとりから判断する。</li> <li>・昔の生活についての関心、問題意識もてたか。</li> <li>・昔の柳原地区のようすを理解したかまとめをノートにより確かめる。</li> <li>・次時の課題意識をとらえられたか、解決法、資料の収集などの話し合いからとらえる。</li> </ul> |
|--|---|--|--|

① 実践の概要

教師の発言

児童の活動 ( B—男  
G—女

◎柳原地区の昔のようすを調べてきた人は発表してください。はいどうぞ。

- B<sub>1</sub>・柳原小の裏のしょうぼうしょがせまくなったのでこした。
- B<sub>2</sub>・道路が今よりせまかった。水道はなく井戸でつるべ。
- ・食事はひとりひとりのおぜんて並べ方は同じ（茶わんのこと。）
  - ・ランプを使い、こたつはすみを使いました。
- B<sub>3</sub>・学校がないところは田んぼだった。
- ・今の女子高のまわりは田んぼでうらの方に公園があっ

よく聞いてきたね。今の発表をもとにしたり、学校のことを勉強したことを思い出して、昔の柳原地区の地図をノートに書いてみなさい。3分間だな。

- もういいね、えんぴつを置いて。
- 今から昔の地図をわたしますからこれとノートをくらべてみなさい。
- この地区はどこのものでいつのことだろう。
- だれがちがっているなんていったけどなんでちがったのかな。それはね、この地区は明治44年みんながきてきたのは何年。
- 明治44年は今から何年前？

- 57年前に柳原小学校はどこにあったかな。
- この地図は昔のだから記号が少し今とちがっています。(記号の説明)

ではこの地図で主として柳原地区について(図でりんかくをえがきながら)

- 家の多くある所
- 田畑の多い所
- 道路の多い所
- 町名 <板書>

など調べなさい。あっ田のまわりや道に色をつけるとわかりやすいですよ。

ではこれを今の地図とくらべて(にている点(ちがっている点))をノートに書いてあとで1番の人(グループ1~4番までついている。)が司会をしてまとめなさい。

B<sub>4</sub>・本城2丁目は田んぼで柳原たんぼといわれた。  
・人力車があった。

- ・3時になると大山ごふく店ではつるべの音がした。
- ・材木は馬車ではこび荷車ではいたつした。

G<sub>1</sub>・わたしの家から(本2弁天様の北)桜並木がみえました。

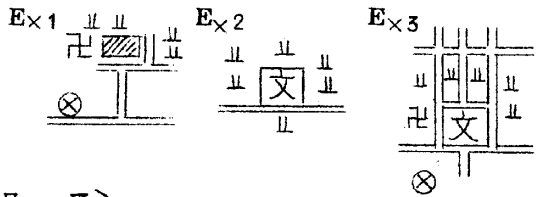
・まわりは農家が多かった。

G<sub>2</sub>・まわりにははたやが多かった。

G<sub>3</sub>・4丁目にけいさつがあり4丁目から西の方がにぎやか

・きものをきて、げたをはいた。

・じてん車があった。



<ワーア>

<早くよこせよ、こっちこっち>

<だいたいにてる。だめだ、田んぼだけあってる…>

<柳原地区図、明治44年>

<わかりません。きいてこなかった…多い>

B<sub>2</sub>・60年~56年前

B<sub>5</sub>・ちがうよ(二人の間でもめる)

G・年表をみれば、57年前じゃない。

B<sub>4</sub>・ある、ここに(地図を指さす)

G・ないよ。高等小学校と女学校がある。

{ 学校のうらはたんぼだ。  
市役所がない。一あるよ、4丁目に } さわめく。  
{ 南の方に家があったんだ。

<てあたりしだいにノートする>

(られつ的な子には観点を示してやる。)

<いくつか地図の印刷について質問>

[グループ7]の話し合いの概略

司(B<sub>2</sub>)にている点について

B<sub>1</sub> 昔は家が少なく今は多い。

司(B<sub>2</sub>)他の人はどうですか。

B<sub>2</sub> なんて家の数がわかるの。

B<sub>4</sub> そうか、でも田んぼ→家になっている。

司(B<sub>2</sub>)前から家富町から南に家がある。

○やめ

- ・グループでまとまったものを、全体でまとめてみましょう。初めてにているところから、はいどうぞ

- ・道路では何かないかな。
- ではちがうところはどうかろう。はいどうぞ

- ・本当かな、調べて、

- ・どれどれ、お寺がいっぱいだった。何というお寺かな。
- ・とするとこれは同じことにていることだね。

- ・ただ多くなっただけかな。

G<sub>1</sub> 本城の方には田や畑が多い。

G<sub>2</sub> 用水は変わってない。

G<sub>2</sub> 大日は昔も今も同じ所にある。

司 ちがうところは

G<sub>2</sub> 昭和通りが広くなかった。

司 B<sub>2</sub> 町名では本城 1. 2. 3. 丁目に分かれてない…柳原町  
大正町など

B<sub>1</sub> けいさつ市役所は 4 丁目からうつった。

B<sub>2</sub> グランド 2 中など今の場所にはない。

<ア-ア-の声>

グループ 2 ・両毛線が通っています。

・昔から大日がありました。

グループ 7 ・昔も今も柳原じゃない高等小学校の南に家が多い。

・昔も今も大通りがある。

グループ 6 ・田畑が昔も今も北の方に多い。

・用水が流れていなかった。

<流れてるよあるがね>

・渡良瀬川が同じところを流れている。

<ほんとに同じかなあ、まあいいや>

グループ 3 女子高の裏に田んぼが多い。

<ちがう、ちがう、女子高はなかった。>

グループ 3 高等小学校の南の道路の南に川がながれていた。

グループ 7 ・女子高、二中、グラウンドがなかった。

・市役所けいさつが昔は 4 丁目にあった。

<市役所じゃない、役場だぞ。>

・そう役場は 4 丁目にありました。

・本城 1. 2. 3. 丁目がわかれてなかった。

グループ 2 ・雪輪町の場所がちがいました。(本城の子の  
発言)

<同じだ>

グループ 10 ・昔は中橋がなかったのに今はあります。

・昔は井草町にまゆ市場があった。

・田中橋が舟橋だった。

・道路がいっぱいできました。

<どこにできたんだい、わからないよ。>

・北の方です。

グループ 6 ・大きな建物が西の方が多かったのが、今は学校のまわりが多い。

・お寺がいっぱいあった。

<法玄寺、徳正寺、樹覚寺、高福寺、法楽寺>全員

<あれ、今もあるよ。><そうだ、そうだ。>

グループ 5 ・昔は今の二丁目に四十銀行があったが今はありません。

・昔は道路が少なかったのに今は多くなった。

グループ 9 ・大正町有楽町あたりに多くなったんだよ。

グループ 10 ・高等小学校の北が行きどまりになっていたのが本城までいっています。



・もうないかな。

〈中 略〉

さてと、この二つの時代はちがいがあ  
るけど…

ではいつごろからこんなに変わったん  
だろう。

〈チャイム〉

あるけど何をすの。

じゃ2枚あけるから、1枚はとても古  
すぎるからさん考にすただけだよ。

・もう時間が終わってしまってるんだから  
やめよう。年表のせいはこの次まで  
にしておくとしてきょうやったことは、

・静かに、では何を用意しておいたらよ  
いか考えておいてください。  
では終わりにします。

③ 資料について(反省をかねて)

中心的な役割りを果たしたのは明治44年と昭和42年の白地図であり、その比較である。

(注) 1. この写真は児童に与えた地区図とほとんど同じ区域である。

2. 写真の中に入りすく書かれてある文字は地図作成後朱で記入されたもので児童用には記  
入されていない。

この地図は縮尺六千分の一であり、白地図と同一縮尺であれば比較はいっそう容易であつたであらう。  
また明治30年の地図を利用したかったのであるが、この44年にくらべ、道路、集落、田畑  
の分布などが明確に示されていない点現在の比較において、児童の観察が容易でないとの配  
慮から、この44年の図を採用したわけである。この地図の観察のさせ方、比較のさせ方とい  
う点では、再考を要することもあるが、何れともあれ、地図を示したことによって児童の目の

グループ7・道路は昔はまがっていたのに今はまっすぐな  
のが多いです。

〈あれ、十文字になってる。〉

グループ6・道の幅が太くなったり細くなっていたのが同  
じ幅になりました。

グループ8・昔は道と道の幅がごちゃごちゃだけど今は同  
じです。

〈何だかわかんないなあ。〉〈もう一度〉

・ハイ、道路と道路の間が離れて十文字になっ  
ているようになったということをいいました。

〈そうか、わかった。〉

グループ1・町名は昔は学校より北にはありませんでした。  
〈高等学校がなかった。用水の西に家がなかつ  
た。〉など

生活のようす

B 57年も前なんです。

B しょうがないよ、すぐかわっちゃんだから

G 年表でわかります。

B 年表じゃだめだよ。道路だの田だの出でないも

B じゃ地図だ。先生もっとある？

〈あるはず、この前こんなにかかえていたんだけど〉

G この2つの地図の中間の地図をみればいつ頃からか  
わったかわかります。

〈ワー、2枚〉

B〈昭和5年か、かわりがいいぞ〉

中橋があるがね。

B 黒板にかいてあります。大変変わったということですよ。  
色をぬってもいいですか。また話を聞いてこなくちゃ

B ただきいてきたんじゃだめだぞ。5年の頃のことじゃ  
なくちゃ

B おじいちゃんが生きていればなあ。

〈くらべてきてもいいんですか。〉

輝きが異なり、積極的にとりくんでくれたことは、拙い指導技術をカバーしてあまりあるものではなかったかとさえ考えておる。

この二つの地図の比較が中心ではあったが、他の生活の変化のようすについての指導に際し、学校沿革の学習時に使用した写真(運動会、体操、家並みなど)から類推させねばならなかったこと、説話中心になってしまったことなどは残念であり、資料収集に努力すべきことを痛感させられた。またまとめの段階や課題設定の段階で、時間終了後のため軽く流してしまったがこの点も先の場合同様、児童の昔に対する関心、興味の深さに助けられ何とかつなぎができた感がする。

この授業はほん



<明治44年足利町全図(柳原地図を扶扶)>

の一例にすぎず、単元全体の目標でもある、人々の努力にもふれる段階のものではない。やや心残りのする実践となってしまうが、本時の最後に児童に渡した地図を示すことにより、次時の実践の概要を推察していただきたいものである。

(注)

1.昭和5年の柳原地区図

(縮尺六千分の一)

2.寛文年間の略図

3.児童利用の白年表

(一部分)

(4.明治30年の足利全

図)

4.明治30年の足利全図

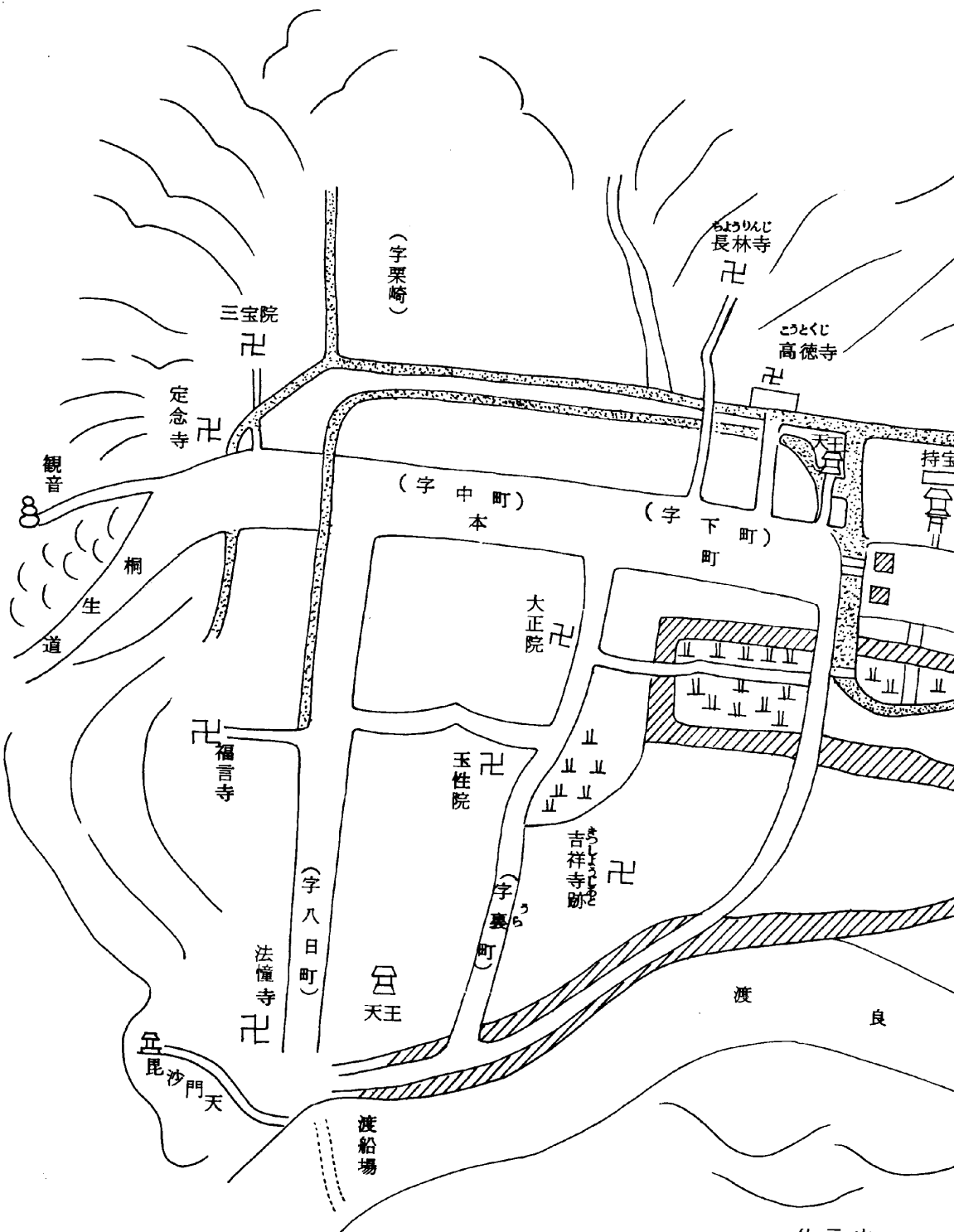


1.<昭和5年足利全図より>

| 25   |         | 20      |         | 15     |     | 10  |  | 5 |  | ことし | 何年前         |          |
|--|---------|---------|---------|--------|-----|-----|--|---|--|-----|-------------|----------|
| . . . 20 . . 23 . 25 . . . 30 . . 33 . 35 . . . 40 . . 43 .                                      |         |         |         |        |     |     |  |   |  |     | 年号          |          |
| <p style="text-align: center;">↑<br/>           グラフなどをはり事象の契機をとらえやすくするため<br/>           のりしろ</p> |         |         |         |        |     |     |  |   |  |     | (主な事項を記入)   | 足利市のできごと |
|  |         |         |         |        |     |     |  |   |  |     | (主として絵図の記入) | 世の中のようす  |
| . . . . .  |         |         |         |        |     |     |  |   |  |     |             | 学校のようす   |
|  |         |         |         |        |     |     |  |   |  |     |             | わたしの家    |
| 25 (20)  | 20 (25) | 15 (30) | 10 (35) | 5 (40) | ことし | 何年前 |  |   |  |     |             |          |

三  
の  
一

(とおい)むかしの足利



(寛文年間 1661~1672)

参考資料として

(足利学校・ばん阿寺までの  
時間的距離をうめるため)

- || はたけ
- |||| つつみ
- ≡ 川



## おわりに(今後の課題)

わたしは今、児童の意識と地域の実態をふまえた上での指導計画の作成とその指導について、ささいなものであるが提案してきた。しかも、歴史的学习の中で特にその時代感覚にひたらせるために、時間的距離感の育成と事実・事象間の関連や事実と時間の一致をさせる年表利用、さらに歴史地図の利用など視覚に訴える資料を十分に吟味し活用すべきことにもふれてみた。

しかしここにいくつかの大きな問題点が存在していることをつけ加えておきたい。

第一に児童の歴史意識調査についての観点と、その問題、さらにはその結果に対する考察に妥当性があるかどうかということである。つまりこの種についての文献も数少なく、中学校社会科指導書をたよりに実施したわけであるが、充分にその意をくみとれず、児童の実態のは握にあまさがあるのではないかということでもある。

第二は、ここでとりあげた歴史的事実・事象が真に足利市発展の契機となっていたり、その時代を代表する事象であるか否かという危惧の念にかられていることである。換言すれば、足利の歴史についての理解の浅さとまどい、文献をあさり、地図や統計を手に入れようとしたが思うようにはいかず、その教材化をじゅうぶんなしえなかったまま、指導に当ってしまうはめになってしまったことである。つまり、郷土資料収集の困難さを知り、その方法をくふうしなければならない。

第三としては、歴史教育についての基本的考え方、小学校3年生の歴史的教育における事実・事象のとりあげ方、能力についての考え方である。低学年においては、時間的意識つまり歴史という面から考えると1つの点の学習をさせている。しかし4・5年になると、交通や工業の発達というように1つの線として学習させ、6年にいたって初めて何本かの線がまとまり1つの層として歴史を学習させているのではないかと考えている。こういう状況の中にあって、3年生は線として、集落・交通・仕事・祭りなどと個々に扱うべきか、それとも、イメージ化・特色を重視し、2・3本の線のまとまりではあっても、一つの層として扱うべきか、指導法・児童の実態(この点については未調査であった。)とも関連して検討の要することである。

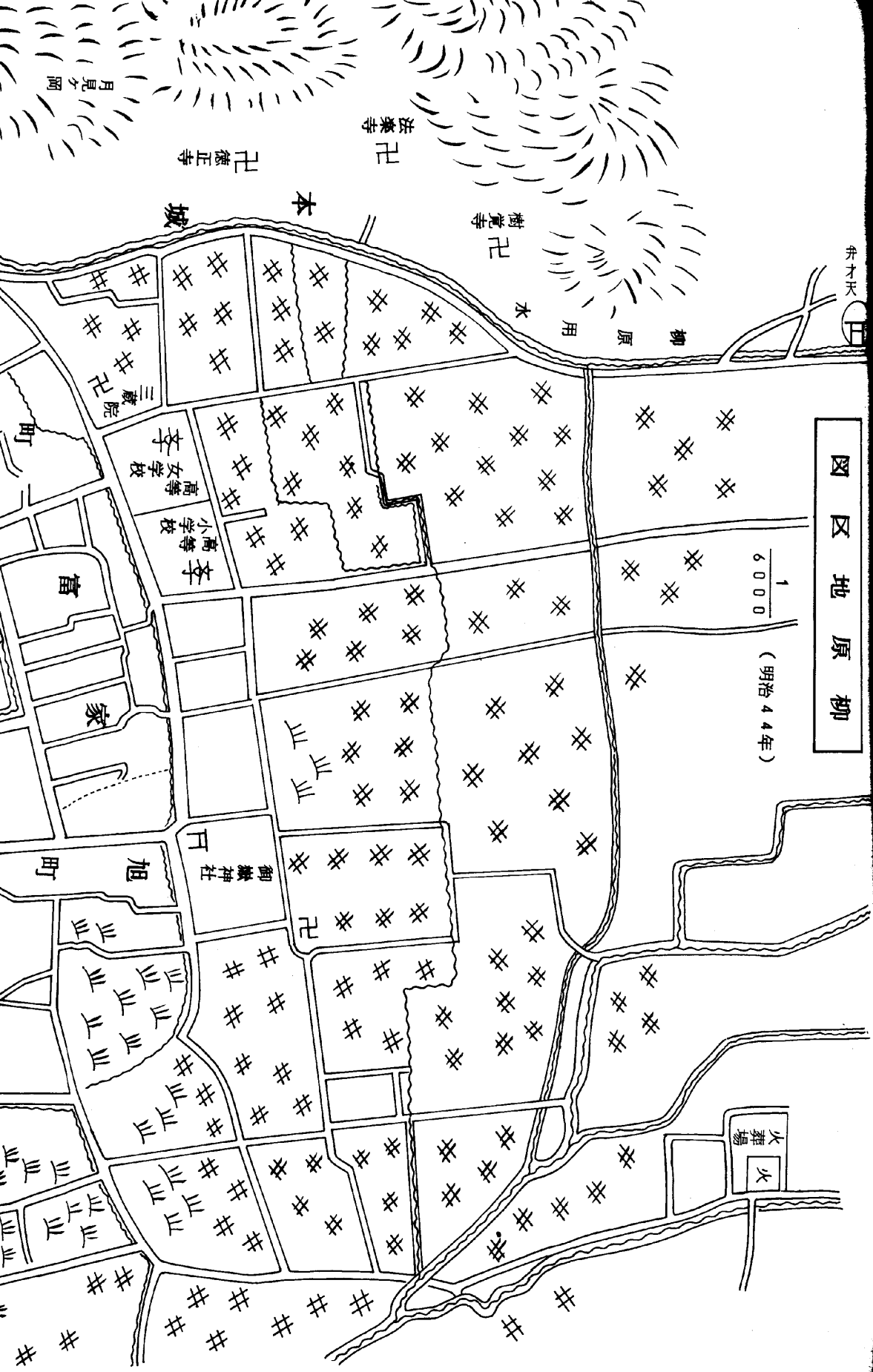
第4として、年代の扱いや・足利学校・ばん阿寺の扱い方である。このことについての私見は簡単ではあるが述べたつもりである。しかし、そのとりあげ方や指導内容については、大いに検討すべき事項の一つと考えている。細かな点まで考慮しては限りがないので、以上大きな問題点・反省点をあげてみたが、これらが解決されることにより、3年生の歴史的学习は一步でも前進するのではなからうかと考えるのである。

以上初めて3年生を担任し、その指導に困惑しながら実践も終了しないうちにペンをとった一教師の迷いを解き明かすべく、先輩諸氏のご指導を心からお願いする次第である。

また末筆ながら、本単元の指導に際しては、本校教諭荒井勝氏に史料収集とその労力など多大なるご援助をいただいたことを付記し謝意を表したい。

柳原地地区图

1/6000 (明治44年)



升才天



柳原用水

樹寛寺

法樂寺

巳徳正寺

本城

月見ヶ岡

火葬場

火

高等女子学校

高等小学校

女子

女子

女子

女子

女子

女子

女子

女子

女子

女子

女子

女子

女子

女子

女子

女子

女子

女子

女子

御嶽神社

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

町

富

家

旭

町

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

町

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

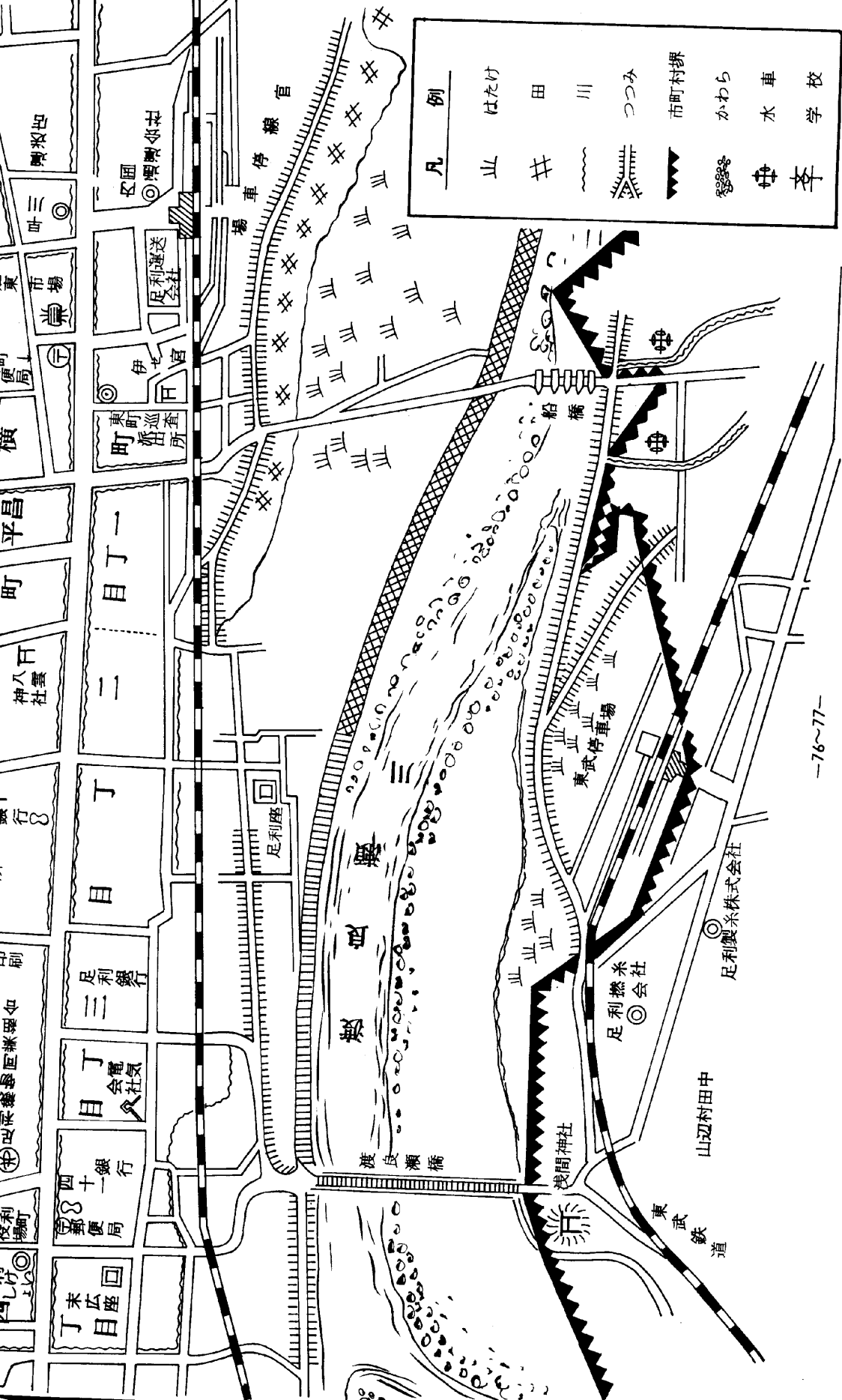
山

山

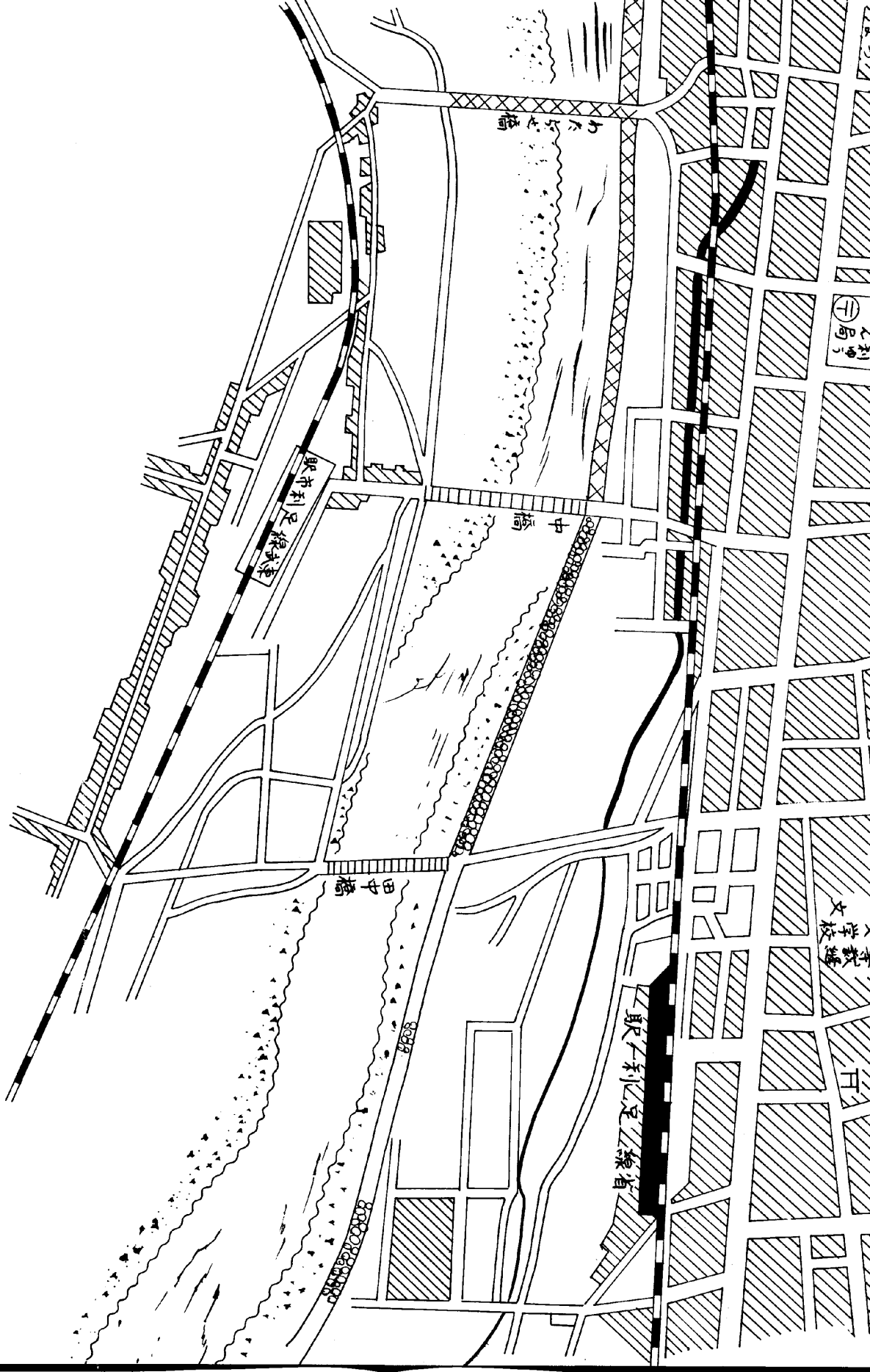
山

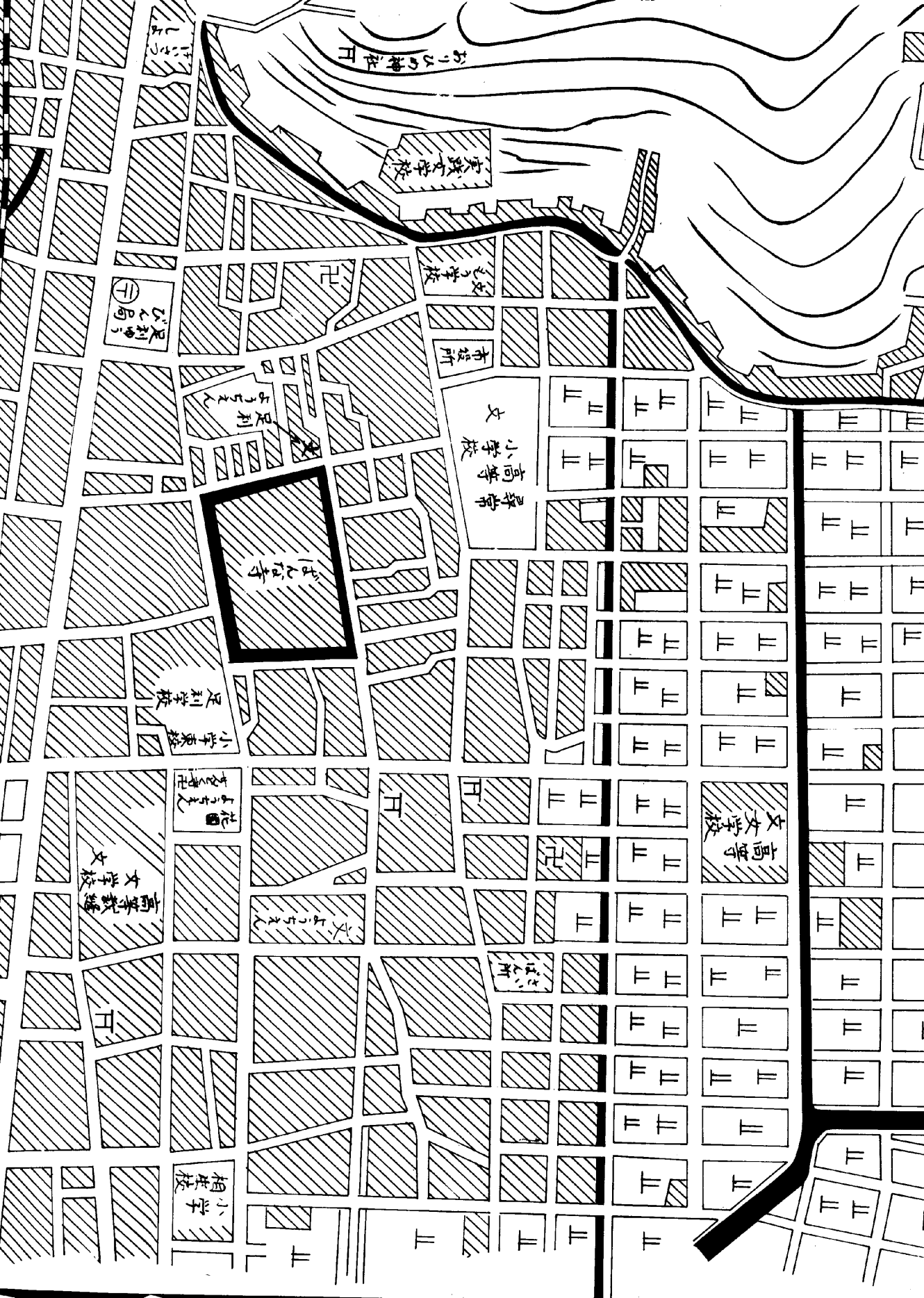
山





| 凡例 | はたけ | 田 | 川 | つつみ | 市町村界 | かわら | 水車 | 学校 |
|----|-----|---|---|-----|------|-----|----|----|
| 田  | 田   | 田 | 川 | 川   | 市町村界 | かわら | 水車 | 学校 |





足利公局

文心院寺

足利小学校

市役所

尋常高等小学校 文

法心院寺

足利小学校

文心院寺

相模小学校

相模小学校

尋常高等 文

市役所

# 柳原地区图

昭和五年

縮尺六千分之一



## 感想

この実践記録で筆者はいくつかの提案を行なっているが、その中で3年児童の郷土の歴史的事象に対する知識量は少なく断片的であり、時間的意識がじゅうぶんでないので、視聴覚教材の活用や調査学習などによって児童の歴史的事象に対する認識を深めること、また年表指導にくふうを加え、これを中心にして事象と事象の関連をは握させたり、時間的意識を育てようということが中心になっていると思われる。その他、郷土発展の契機となった事象のとりあげ方、ばんな寺の取り扱い方、過去の時点にたつて物を見、考えることの指導、今昔の相違・移り変り・因果関係は握の指導などいくつかの提案もされている。いずれも児童の意識調査を実施し、その分析総合のうえに計画をたて実践するという過程をへての提案であり、歴史的内容の指導上参考になる点が多いであろう。またこの実例記録において、「調査」と「指導」が明確に関連づけられて論述されているのが印象的であった。研究の基本的態度のしっかりしたもの一つであろう。